

# テクノロジーと法の未来へ

Vol.25

FACULTY OF GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で分析・解明し、解決策を論理的に構築する、ITL独自の学びに迫ります。

## 台湾への興味

私はITLで松野良一ゼミに所属し、ジャーナリズムについて勉強しています。このゼミでは、各々が自分の興味が向くままに研究テーマを設定し、取材・インタビューを重ね、最終的にはドキュメンタリーやルポルタージュの完成をめざします。そんな中、私が興味を持ったのは台湾です。日本にとっても身近な場



## 台湾に残された祖母のルーツを辿って

国際情報学部国際情報学科4年  
東京都立武蔵野北高等学校出身

かわはら  
川原 美緒

所、台湾。日清戦争後の下関条約が締結された1895年から第二次世界大戦が終結して日本が降伏する1945年までの約50年間、台湾は日本の植民地でした。しかし、台湾はとても親日的であると知られています。今年の1月1日に発生した能登半島沖地震を受け、台湾政府が日本に6000万円の義援金を送るという声明を出したことは記憶に新しいのではないのでしょうか。また、国民からの自主的な募金の総額も3億円を超えています。

私はもともと台湾に特別な興味を持っていただけではありませんでした。しかしある時を境に、台湾の日本統治時代は、私にとって「どこか遠い昔話」ではなくなりました。私の祖母の戸籍謄本を見せてもらった時に、祖母の出生地の欄に「台湾花蓮港市」と記述があるのを見つけたのです。祖母に尋ねると、祖母の祖父が日本から台湾に渡り、そこから祖母の代までの3世代が台湾の花蓮で生活していたと教えてくれました。また、2歳の時終戦を迎えた祖母は

生まれ育った台湾から日本の引き揚げ船に乗り日本へ渡り、本土では家族とともに親戚の家を転々として苦労をしたことなど、私が知らなかった祖母のルーツを聞くことができました。私は、親戚が歴史の波に翻弄された一員であったと知り驚きを覚えたとともに、台湾と日本の歴史についてもっと知りたいと思うようになりました。

## 台湾での調査活動

そこで、祖母のルーツをたどりつつ、日本統治下の台湾についての調査や映像化を目的とした研究をスタートさせました。まず、当時の台



1945年まで祖母一家が住んでいた跡地を訪れました



「湾生」に台湾で暮らしていた頃の話をお伺いしました

湾の様子を知る人を探すところから始めました。私の祖母が台湾で暮らしていたのは2歳までで、台湾についての記憶はほとんど残っていません。そのため当時の台湾についての記憶がある方を訪ねていきました。私たちが当時の花蓮の様子を知るためにお話を伺ったのは、祖母と同じ台湾生まれの日本人である「湾生」と、同じ時代に台湾で日本人に日本語で教育を受けて育った「日本語世代」の台湾人です。とても印象に残っているのは「あの時代はとてもいい時代だった」と懐かしい幼少期の思



現在の台湾・花蓮の様子



祖母が暮らしていた頃の台湾・花蓮の古地図

い出を語る姿です。湾生の方からは、幼い頃にかわいがつてもらっていた台湾の原住民族の方と引き揚げの際にもう一度会う約束をし、戦後実際に再会を果たしたというエピソードを、日本語世代の方からは、統治時代に近所に住んでいた日本人の農家たちとパーティーをするほど仲が良かったという話、引き揚げていく日本人が心配で仕方がなかったという話を伺いました。日本人と台湾人の間に亀裂はなく、湾生の方、日本語世代の方、いずれも双方を尊重し、仲の良い隣人として見ていたようです。

同時に、祖母一家が台湾で暮らしていた頃の軌跡を調べ始めました。まず、日本の台湾協会に行くと、公務員として台湾に渡った人の名簿の中に祖母の祖父の名を見つけました。これをもとに台湾総督府に残されている公務員のデータベースを用いて調べを進めていくと、祖母の祖父と父の名前、年ごとの勤務地・職業の詳細がわかりました。

その後、祖母一家の暮らした場所の特定を試みました。台湾には日本統治時代の戸籍が、70年ほど経った今でも残されています。このことを知った私たちは、台湾花蓮の戸籍が保存してある役所・花蓮戸政事務所に連絡を取り、祖母が台湾にいた頃の戸籍を手に入れました。この戸籍に書かれていた住所と現在の花蓮の住所を重ね合わせ、祖母が当時住んでいたであろう場所を特定することができました。

祖母が住んでいた場所は「花蓮文化創園区」という場所になっていました。花蓮文化創園区には日本統治時代の建物が残されており、現在は市民の憩いの場になっています。花蓮文化創園区の職員の方の案内によると、花蓮文化創園区の一部は当時の官舎（役人の社宅）だったところで、祖母はこの場所に住んでいた可能性が高いとのことでした。実際に

現地に出向き、「この場所を幼い祖母が駆け回ったりしていたのかな」などと思いを馳せ、とても感慨深い気持ちになりました。

### 調査のまとめ

この取材を通して、台湾から日本への愛を感じました。これからは、台湾に生きる各世代の日本への思い

をまとめ、日台関係の歴史について映像として記録する予定です。台湾は歴史を見ても現在の世界情勢を見ても、とても不安定な立場に置かれています。是非日本人にも台湾の情勢を「どこか遠いところのお話」ではなく、日本とともに歴史を歩んだ場所として注目してほしいと思います。